



宮崎国際大学教育学部ニュースレター

教職課程大学・学部の新しい教育目標・ディプロマポリシーとは！！

副学長・教育学部長 福田 亘博



教育学部では、3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー：DP）を掲げ、これらを有機的に連携させ、学生が実際に教育現場に就職する際に求められる教科力・教育実践力等を身に付けられるように整備しています。実際に高い教員採用試験現役合格率を達成しています。

さて、最近、教員養成学部では令和4年度までに教職課程の自己点検評価報告書を公表することが義務化されました。本学でも公表に向けて準備を進めていますが、その中で教員養成学部の教育目標は従来DPとして掲げてきた事項・内容とは異なり、各県の教育委員会が求める教員育成指標（原案は文部科学省が提示）に変更するように求めています。今回の場合は令和の日本型教育を実践するための変更となるようです。

宮崎県では教員を採用するにあたっては、①教職に必要な素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応、⑤ICTや情報・教育データの利活用の項目を掲げ、さらに各項目は細分化されています。教員を目指す学生は卒業時にこれらを身に付けていることが求められる

ようになります。

本学では、今年度末までに、教職課程自己点検評価報告書を公表した後、直ちに新しい教員育成指標に掲げられている教員としての資質・能力が育成できるように、教育カリキュラムの見直しに着手したいと考えています。実際には新しい教育カリキュラム案を今年度末には文部科学省に届出するように手配済みですので、ご安心ください。

本学部では、このように社会の情勢や変化に迅速に対応し、高い教員採用試験現役合格率を維持しています。皆様には、本学が掲げる「礼節・勤労」の教育理念のもと、学生諸君が教員や公務員になりたいとの希望が確実に達成できるように、教職員が一丸となって指導・支援してまいりますので、相変わらずのご協力・ご支援をお願い致します。

目次	
教職課程大学・学部の新しい教育目標・ディプロマポリシーとは	1
「自分らしく生きること」を期待して	1
卒業を控えた4年生の声	2
土呂久に集まれプロジェクト	3
卒業論文発表会	3
教員採用試験への決意	4
教員採用試験特別対策講座(3月)	4
入試広報部より	4

「自分らしく生きること」を期待して



ご卒業おめでとうございます。

大学生活の大半をコロナ禍で過ごした卒業生の皆さんは、いろいろな制約の中で困難を乗り越え、講義や教育実習及び卒業論文等はもちろんのこと、ボランティア活動にも真摯な態度で取り組んでいました。一人一人の生き生きとした表情が思い出されます。4月からは新しい世界が待っています。自分を知って、自分らしく生き、新たな夢に向かうことを期待しています。

マイルストーン

合唱曲に「わが里程標」(作詞 片岡 輝)があります。

学生教職支援センター長・教育学部教授 白石 知子

さから

しじま

「時に抗い立ち止まれば 闇の沈黙に深まる永遠の謎……………けれど ふたたび陽はのぼり 行く手に並ぶ里程標を照らし出す それは先に歩いていった人々の勇気のあかし さあ一步をふみ出して あしたに石を積もう」

これからは学生時代と違って悩み惑うことも多くあることでしょう。一人で悩まず、誰かに頼ってください。

母校はいつまでも卒業生を見守っています。

卒業を控えた4年生の声

コミュニケーション力の向上



教育学部4年 田中 美帆
宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立宮崎東高等学校出身)

4年間で教科に関する知識、授業づくりや実践の技術など様々なことを学ぶとともに、教員に必要な人間性も高めることができました。特にコミュニケーション力を向上できたことは私にとって大きな学びでした。

大学ではグループでの学習活動が多く取り入れられており、他者と協働する機会を重ねていくことで聞く力や相手の小さな変化にも気づく力を高められました。

さらに大学内だけでなく、ボランティアで出会った方々、外部講師の先生方など幅広い年代の方々とお話しさせていただく機会もあり、視野を広げて多角的に思考することや、自らコミュニケーションをとろうとする態度の重要性を学びました。

これらの学びは、小学校教員にとっても大切なものです。4年間で身につけた力を活用し、さらに向上させ、児童一人一人が安心して過ごせる学級づくりができるよう、これからも努力していきます。

大学生活の4年間を振り返って



教育学部4年 東村 隼督
宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立宮崎南高等学校出身)

4年間という大学生活も終わりに近づきました。思い返してみると、私たちの大学生活は新型コロナウイルスとともにありました。感染症対策として、日々の授業はオンラインでの講義という形になりました。不慣れな授業形態でしたが、学びを共にする友人の力が私の支えになり、乗り切ることができました。

この友人たちは将来にわたって付き合えるかけがえない仲間です。これから先の人生で楽しいときも厳しいときも、互いに支え合いながら、力になってくれるはずです。この絆を大切にしていきたいです。

4年間で教員になるための専門的な勉強、実習、アルバイトなどで多くの経験や学びを積み重ねて自分の視野を広げることができました。この4年間で築き上げたものは、これからの人生で大切な土台になります。いつかお世話になった先生方に立派な姿を見せることができるように、これからも日々精進したいです。

宮崎国際大学で学んだこと



教育学部4年 青木 慎吾
宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立延岡高等学校出身)

大学生活を振り返ると、勉学、サークル、友人との関わりなど、全てにおいて充実していたと感じています。私はこの大学で、教育に関する知識や技能だけでなく、責任のある行動や人との関わりなど、人として大切なこともたくさん学びました。

教職サークルの部長や理教科教育基礎ゼミの講師役など、大学では様々な役割を頂いたので、その経験から、責任のある行動がとれるようになったのではないかと感じています。また、大学で出会った友人や先生と関わることを通して柔軟な考えをもてたり、自然と感謝の気持ちをもって接したりすることができるようになりました。

このような学びは、今後社会に出て教員として働くうえできっと自分を支えてくれるものになると感じています。宮崎国際大学で学んだことを、教職に就いてからも活かし、宮崎の教育に貢献していきたいと思えます。

講義を通して身につけた力



教育学部4年 河野 優花
延岡市役所(保育職)内定
(宮崎県立延岡高等学校出身)

私は宮崎国際大学で、特に物事の背景を考える力が身についたと感じています。幼保コースでは、どの講義も保育現場で実際にあった事例をもとに学びを深めていきます。まずは自分で考え、次に友人と意見を交換し、最後に教員の見解を聞きます。そのため、様々な意見に触れることができ、自分にはなかった保育の視点を知ることができました。

講義を受ける前の自分は、保育に関するニュースを見ても「そうなんだ」と感じるだけで、背景を理解することや解決策を考えることはしていませんでした。しかし、講義を受けて様々な保育の視点を知ったことで、保育に関するニュースに対して、自分なりに背景を考え、どのような対策を取ると問題が解決するのかということを考えるようになりました。

身につけたこの力を活かし、就職先では子どもの行動の背景を捉え、子ども一人一人に適した援助や声かけを行っていきたくたいです。

令和4年度に「MIC 学生チャレンジ・プロジェクト」と称し、本学学生を対象に地域や大学の活性化に繋がるプロジェクトの募集がなされました。このプロジェクトを通じて、学生の企画立案力、実行力、コミュニケーション力などの向上を目指しています。今年度採択された4グループのひとつ**土呂久に集まれプロジェクト**メンバーに教育学部3年生がインタビューをし記事を作成しました。

プロジェクトを始めた理由

2021年12月の「環境教育論」のフィールドワークで過去に高千穂町土呂久地区でおこった砒素公害について学びました。その際に現在の土呂久の過疎化という課題について知りました。私たち学生と土呂久地区の方々で土呂久地域を盛り上げることができないかと考えました。

いつ頃から始めましたか

2022年4月に募集があり、4年生5人に1、2年生5人を加え、土呂久の方々話し合いを重ねて企画をしました。2022年5月の1次審査、7月の2次審査を経てプロジェクトが採択されました。

新しく加わった学生の動機

自然とのふれあいや地域の人との交流をしてみたかったことがきっかけです。また、なじみのない高千穂町の土地に行ってみたく考えました。農作業をしたことがないのでその体験もしてみたく考えました。

プロジェクトの具体的活動

主な活動として、鉱山跡地の整備をしています。草刈りをして、桜や楓などを植えています。将来的に公園のようにしたいと考えています。また、私たちが土呂久に行って知ったことを、インスタグラムに掲載し、より多くの人に伝えることで、土呂久に行くきっかけ

づくりになると考えています。土呂久に行く人が増えることは、地域活性化にもつながると考えています。

プロジェクトを通して学んだこと

学生たちで企画し、実行するまで多くの方が協力して下さり人と人との繋がり大切さを学びました。地域の方々も歓迎してくださり、元気をもらいました。

課題

今後どのように継続していくかです。サークルをつくるということも考えています。大学から土呂久までは距離があり、資金面、交通面に課題があります。

プロジェクトをしてやりがいを感じたこと

プロジェクトを始め、土呂久に行く回数が増えました。そうすることで地域の方々との距離が縮まりました。また、大学生の活動の様子を見て、地域の人々がありがたく思っていると行ってくださり、非常にうれしかったです。



後列左から教育学部3年 日下玲慈(国分高出身)、1年 岩切友敬(宮崎北高出身)、前列左から3年 川越花音(宮崎北高出身)、2年 三浦智祥(宮崎北高出身)、4年 川越怜奈(宮崎西高出身)、4年 黒木明美(人吉高校出身)

卒業論文発表会を終えて



教育学部4年 前田 海希
鹿児島県公立小学校教員内定
(鹿児島県立大島高等学校出身)

「児童の発達に合わせた給食準備指導の在り方について—給食指導から見た保幼小接続—」という題目で研究発表を行いました。幼児教育ではすでに給食の当番活動

を行っていますが、小学1年生では高学年児童に給食の準備をしてもらっています。幼児期での学びを小学校での給食準備に繋げることができないかと考え、研究を進めました。

思うように研究が進まず苦戦することもありましたが、ゼミ内外を問わず友達と切磋琢磨しながら研究と向き合った1年でした。そして、発表会では自他の発表を通して新たな学びがあり、とても充実した時間となりました。

給食指導についての保幼小接続の観点から研究を行ったことで、子どもの「できること」に着目することの大切さを学びました。4月から教師として、子どもたちができることに着目し、主体的に活躍できる場をつくっていけるようにしたいと思います。

卒業論文発表会 ささやかな報告



教育学部教授 河原 国男

今年は卒論発表会を対面で実施しました。仲間や教員に向けて語りかける姿勢や熱意、声量の度合いがはっきりと伝わってきました。「卒業論文は4年間の集大成」(福田学部長)にふさわしい意気込みを、いくつも直接肌で感じました。

卒論発表会はまだ30数年指導教員として経験していませんが、会場にいて思うことは、一種緊張したこの場に保護者も同席し、「わが子の努力のほどを直接見知ることができた」、という点です。試験の場でもあるので難しいでしょうが、そのような思いを毎度抱きます。

実はこの度、わずかですがそれに近い経験をしました。私が訪問した実習校の校長先生が今回発表した4年生の保護者でした。発表が実に見事なものでしたので、そのことを電話で伝えました。「そうですか、大学にも先生にも本当にお世話になりました」「〇〇先生が指導教員で尽力してくれたと思います」。ささやかな報告です。姿は見えませんが、校長先生も、この時ばかりは父親としてのよろこびを体全体で表現してくださっているように感じました。

教員採用試験への決意



教育学部3年 徳丸 綾真
(宮崎県立宮崎南高等学校出身)

私は、宮崎小学校で4週間教育実習をしました。宮崎小学校では、大学の講義で学ぶ理論だけでは得られない教員としての立ち振る舞いなどの実践でのスキルを学ぶことができました。

実習前、大学での授業で模擬授業をする際、児童の思考の流れにつながる授業をすることが難しく、実習中是不安と緊張の連続でした。しかし、先生方の授業を参観させていただいたり、研究授業をする際、どのような準備をしているのか教えていただいたりして、児童にとって分かりやすい授業をすることができました。また子どもたちとうまく接することができるかと不安でしたが、実習先の先生方からアドバイスをいただき、子どもたちとのコミュニケーションが自分なりにとれるようになりました。

今、振り返ると4週間はあっという間でした。実習での貴重な体験からいっそう小学校教諭になりたいという夢が膨らみました。その夢を実現するために大学での勉強に励み、採用試験の合格を目指して努力していきたいと思います。

令和4年度 教員採用試験特別対策講座(3月)

学生教職支援センター 杉田 康之

公立学校教員採用選考試験(第一次選考試験)は例年7月上旬に実施されます。学生教職支援センターでは、試験対策として学年末休業に入った3月から1か月間、教員採用試験特別対策講座を実施します。

この講座では教員採用選考試験の課題に沿った具体的な指導が外部講師によって行われます。教育関係法規、教育原理、教育心理、特別支援教育、国の教育施策等、教職全般に関する内容に加え、各教科(科目)等の学習指導要領や指導内容についての対策を行います。

さらに8月に実施される第二次選考試験の内容には個人面接があります。ここでは、教育者としての使命感及び教育にかける意欲、人間性等が評価されます。そのため、本年度新たに鹿児島ECC中央校から講師をお招きして、身だしなみや立ち振る舞い、言葉遣いの留意点、評価を高める話し方などを指導していただきます。教育者としてふさわしい態度等を学び、自信をもって面接試験に臨んでもらいたいと思います。

教員採用選考試験まで5か月を切りました。この講座内容を十分に理解し、自分の力として身に付けることで、現役合格へと突き進んでもらいたいものです。

入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931

MAIL admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを読み込んでお友達追加!

EVENT情報

ウェブサイトはこちらから ↓

オープンキャンパス 開催月：7・8月(予定)

内容：学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験発表、学食体験、個別相談会 など

週末キャンパス見学会&相談会 開催回数：年8回

内容：学部説明、入試相談、受験対策講座

※日程等の詳細は決定次第本学HPにてお知らせします。

個別の見学会・相談会も受け付けております。ご希望の方は事前に入試広報部までご連絡下さい。



YouTube



宮崎国際大学

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話：0985-85-5931

FAX：0985-84-3396

ホームページ：<http://www.mic.ac.jp>

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科



宮崎国際大学